

金劔宮



〈主祭神〉

天津彦火瓊瓊杵尊

〈配神〉 大國主神 大山咋命 日本武命 事代主神 猿田彦神

2021年5月9日、久しぶりに地元白山市鶴来町にある“^{きんけんぐう}金劔宮”へ行ってきました！

白山比咩神社から車で数分、歩いても30分程度の近距離にあります^^

これまでも何度か訪れた事がありますが、個人的には何故かなんとなくすつきりしない(何かがあるような…)まま、今日まで来てしまった感じがします

今回訪れるきっかけとなったのは、白山さん境内で最も古い歴史をもつ

“白山比咩神社創祀之地”にフォーカスした事からです

“創祀之地”は、約2100年前、崇神天皇7年(紀元前91年)創建ですが金劔宮はそれよりも更に古い紀元前95年で、“北陸最古の神社”とも言われるそうです

また、白山比咩神社の所在地である「白山市」は、旧「鶴来町」(^{つるぎまち}私にとって、鶴来る町——)であり

この地名は、古名を「^{つるぎのみや}劔宮」とする金劔宮に由来するとの事で、なんだか今まで

全く見えていなかった、古くて大きな世界が開かれていく…そんな予感がしてきました^^

神社庁Webページには、金劔宮の由緒について、このように記されています

古代出雲文化が早く海岸線を経て、能登地方に及んだのに対し、

この地方は大和文化の拠点であるばかりでなく、総じて県内では最も古い文化の発祥地であるから
神社の由緒でも、有名なことがらを数多く残している。

中世以来白山七社の一に数えられ、そのうち白山本宮・三宮・岩本とともに、本宮四社といわれていた。
神仏習合の当時、いわゆる七堂伽藍雲表にそびえ、神官社僧、即ち神人衆徒多数をようしていた。

歴史は(も)さっぱり^^;なので、少し調べてみました

私の探求の方法は、まずは「その場で感じた事を、感じたままに！」が、最も重要で
アカデミー(NMCAA)での学び＝“愛”が、あらゆるすべてのベースです！^^

後は、波動の共鳴？によって繋がる事のできる情報(Web)の中で
自身が真実と思うものとのコラボ、という感じです^^

崇神天皇3年(紀元前95年)とは、日本の歴史年表における弥生時代であり、
初代天皇とされる“神武天皇”(前660年に即位、日本[太陽]神界が直接地上に降り、
日本という国が誕生した日)からはじまった、大和時代でもあります
崇神天皇(＝神武天皇?)の頃、石川県の能登地方には出雲文化が広がっていましたが
ここ金劔宮(加賀地方)は、古くから大和文化の拠点となっていたとあります
本殿に祀られている御祭神を見て、私が感じた素朴な疑問。。

出雲と言えば、素戔鳴や大国主等の、国津神の世界

大和とは、天照大神や瓊瓊杵等の、天津神の世界(大雑把ですが^^;)

大和文化の拠点であった金劔宮に、その両者(神)と一緒に祀られているのはどうして？です
瓊瓊杵尊の元に、天津神と国津神が融合し、存在しているという事でしょうか？

地元石川県についてもっと知りたい、との思いで検索していて浮かび上がってきたのが
「越国」(高志国、古志国)と言われるものでした

福井、富山、新潟、山形の一部も含めた北陸全体の、古代における呼び名です
越は、肥沃な農土を持ち、翡翠が取れる豊かな地で、出雲国とも交流があったようです
その越の国を治めていたのが、“伊弉諾尊”と、后である“伊弉冉尊”とされ
白山比咩大神(菊理姫)と一緒に祀られている、“イザナギ・イザナミ”の二神の姿が
(自身にとって)初めて、明確になった気がしました^^

この二神の間に生まれた子供が、越国の女王となった“天照大神”であり
その子孫が、白山七社の“第一王子”と呼ばれる、“天津彦火瓊瓊杵尊”です

時空を超えた幻の邪馬台国、神話の世界が、より身近に、鮮やかに感じられてきました^^

神話(歴史)の中には、同じ名前の神が、あちこちに出てきたり、

違う名前でも同じ神の事だったりして、しょっちゅう頭がこんがらがっている私ですが(笑)

アセンションを学ぶようになって、わかってきた事があります

○神々の名前とは、様々な働き(事象)を表す役職、シンボルのようなものでもある事

○多次元同時存在(全ての次元が、今ここに重なって存在し、影響を及ぼしあっている)
という、宇宙の法則が存在する事

○私達が、義務教育で教えられてきた歴史とは、実際にあつた事以上に、

なんらかの意図をもって脚色された、フィクションである事等で

「自分が真実と思う事が真実」でOK!!なのではないでしょうか?

それは、無限に存在するパラレルワールド(並行時空)を、中今で選択することによって
自分の進みたい道、生きたい未来を創造していく事でもあるのだと思います

私の道標は「愛にはじまり、愛におわる!」です^^

今回のもう一つの驚きは、“スサノオ”が、イザナギ・イザナミから生まれた子供ではなく

出雲の王であつたとされる事で、越の女王アマテラスとの間に起きた出来事が

「天の岩戸隠れ」や「天のうけひ(誓約)」等の神話となっているのでは?という点です

スサノオは国津神の代表とされますが、本来は天津神であり

アマテラス以前に高天原より天下り、出雲の地に君臨した王だつたのではないのでしょうか?

だとすれば記紀に見るように、天津神同士が争うなどあり得ないはずで、

他の様々な事情が複雑に絡み、起きてしまう混乱を鎮めるために、大国主の時代になると

「国譲り」という形で一旦、アマテラスを中心とする大和に、日本国の未来を託したのだと思います

そして、地球維神(地球史最大のシフト、地球大アセンション)の今

真に世界を立て替える事が出来るのは国津神であり、その役割と言えるのではないのでしょうか

良の金神 = “国常立太神” 復活! 日の本の“黄金龍体” 始動! です

金劔宮の“金”は、新しい地球(NMCの雛型)の核心である“黄金の菊”

= 根源太陽パワー!! であり、この地に秘められていたものであるような気がします^^

金劔宮は、もとは“劔宮”“劔神社”と呼ばれ、

歴代の名立たる武将が崇敬した、武勇の神であつたそうです

“劔”の字が旧字となっている点に、何かメッセージがあるような気がして調べてみると

「多くのものや人をまとめることで、両刃がともに揃うの意」とありました

両刃とはまさに、天津と国津、大和と出雲、

アマテラス(女性性)とスサノオ(男性性)等と、言葉で表現される
一なるものの表と裏、陰陽の二極であり、その縦系と横系とが織りなす機微、模様が、
地球の美しい未来の姿、全体像となって見えてくるのだと思います

世界の真ん中には、縦と横、陰と陽の統合を表す巨大な“愛の十字架”があり
クロスした中心には、“黄金の菊”=“根源の究極の愛の太陽”が、燦然と輝いている！

私には、そんな風を感じられます^^

劔とは、強靱な意志の象徴でもあり、金の劔とは、
決して揺らぐ事のない“究極の愛の意志”、そのものなのだと思います^^

劔で浮かんできたのが、ヤマタノオロチの尾から出てきたとされる“天叢雲劔”です

自身が2013年に、(伊勢)神宮へと向かう途中で立ち寄った

劔の宮“熱田神宮”で感じたのは、

白山神界の真っ白なフトン(創造の源の光)の劔だったのですが

古事記の中に、「高志之^{コウシノ}八俣遠呂智^{ヤマトオロチ}」(高志=越)と記されている事を知り、驚きでした

“天叢雲劔”は、本当に越国白山の劔だった?!^^

勇者スサノオが、アマテラスに献上(返還)したとされる“天叢雲劔”が
今ここ金劔宮に、瓊瓊杵尊と共にあるのかもしれませんが(エイエイオー——!!^^)

“瓊瓊杵尊”といえば、真っ先に浮かぶのが、“天孫降臨神話”ですが
神話の世界、神々と呼ばれるものが、本当に存在することを、心底実感したのが
天孫降臨の地とされる、霧島神宮を訪れた時です

2012年10月、NMCAAにおける神事&セミナー参加のために、霧島へと向かいました

早朝自宅を出発すると、薄明かりの中に、くつきりとした、見事な虹が現れ

(あれは、虹ではなくアーチ、神界の門です^^)

私達がこれから霧島へ行こうとしている事を、知っていたのでしょうか?(笑)

まるで特撮映画の、セットの中のような。。。辺り一面が、

神々の歓迎、祝福の猛嵐としか思えない、大歓喜のエネルギーに包まれました?!

何が起こっているのかその時は全くわかりませんでした、とにかくこの場の喜びを共にしたい!

という気持ちが抑えきれず、車を脇にとめて、天に向かって拍手を贈る

変な人の私がありました(笑)

「今がまさに、第二の天孫降臨、そして帰還の時である！！！」との

セミナーでの Ai 先生のお言葉が、その時の出来事と相俟って
ようやく理解出来るようになったのは、随分後になってからです (いつもの事ですが^^;)

ハイアーセルフが、圧縮ファイルとして受け取っていた情報を、

地上セルフが進化の段階に応じて解凍し、

真の悟り、力としていくという、アセンションの行程、醍醐味なのだと思います^^

瓊瓊杵尊を御祭神とする霧島神宮が、天孫降臨の象徴 (エネルギー) として存在し
そこで天上の神々が、今この時を迎えた私達の事を、心から祝福し、迎え入れてくれたのだ…

頭ではなく靈魂体の全て、全身全霊でわかった！と感じる、とても貴重な経験でした

高千穂峰の神々の中心にいたのは、Ai 先生でした！ (ニニギ尊も? ^^)



2012.10 高千穂峰を向こうに仰ぐ霧島神宮元宮跡

もう一つその時感じた、とても重要なことがあります

この時初めて、謎の新G (New.GWBH) が、私の前に現れたことです！

「決して、魂にブレーキをかけるな！！」という

NMC の核心 = “根源天照皇太神” の地上ポータル、Ai 先生のお言葉の奥にある

荘厳壮大、神聖なる、宇宙創始からのマスター集団

中今の白山連合と感じる、新生 “宇宙神聖白色同胞団” = “新G” です！ ^^

愛でワネスの “NMC (新宇宙)”、その雛形 “新 (真) 地球” 創生！ のためのシステムであり

宇宙の中心軸 = セントラルサンシステムを管理・運営する

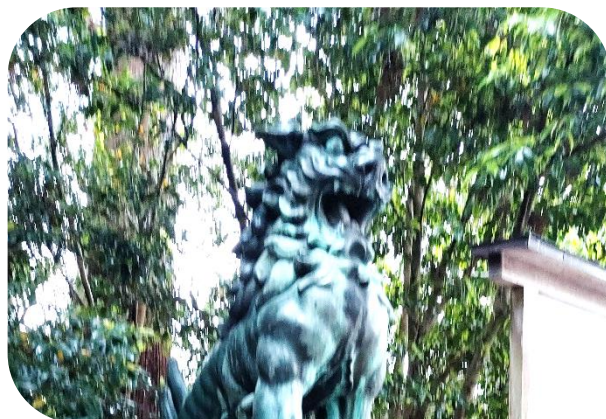
天界におけるトップ & コア = 根源です



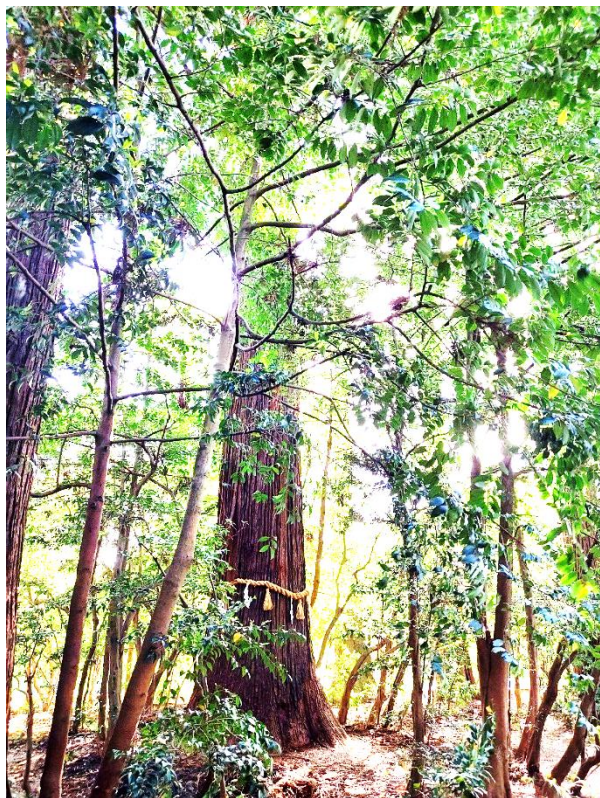
クリピカ?! (笑) クリスタル&ピッカピカ、光(場)の中心という感じ。。。そしてとても神聖^^
まさに、太陽の御子“天津彦火瓊瓊杵尊”、白山第一王子です!



境内入口を入るとすぐ(境内から写したものです)、筋骨隆々ロボット?
宇宙戦士のような、カッコいい狛犬さんが出迎えてくれます、が
左手にいる、阿吽の“阿”^{あうん}の方の狛犬さん、コワッ!? ^^; すごい迫力です…



それは、背景=この場のエネルギーの勢いに、関係がある気がします



後方に見えるのは、御神木でしょうか
神秘的で、光の国という感じです
所々、葉が青く光って見えます…？

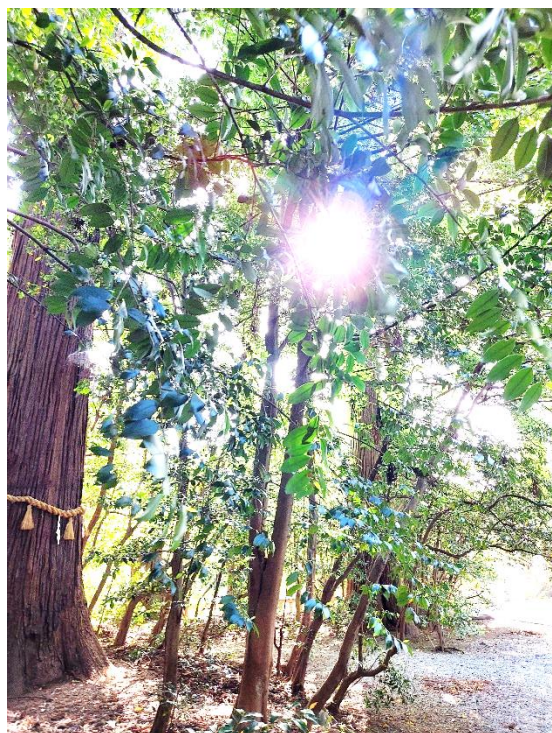
そう言えば以前、「金劔宮の御神木に
龍の形をした枝が、突然現れた?!」
と、聞いたことがあります



木々の間を、風が渡る？

何かが、動く気配

もしかしてこちらは、青龍さんの棲み家?!



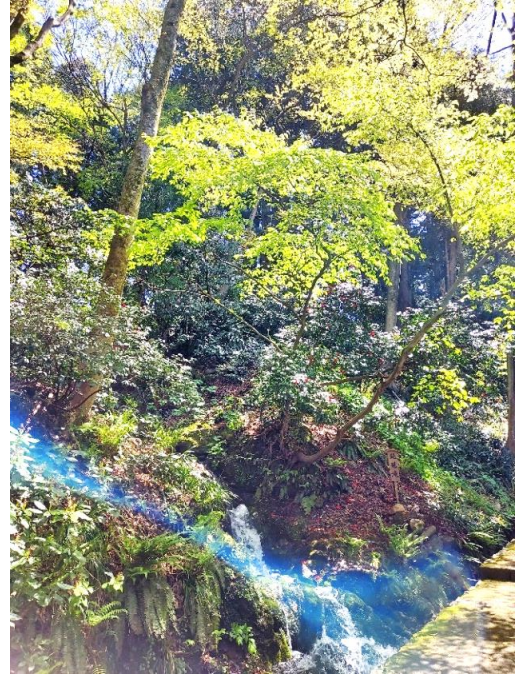
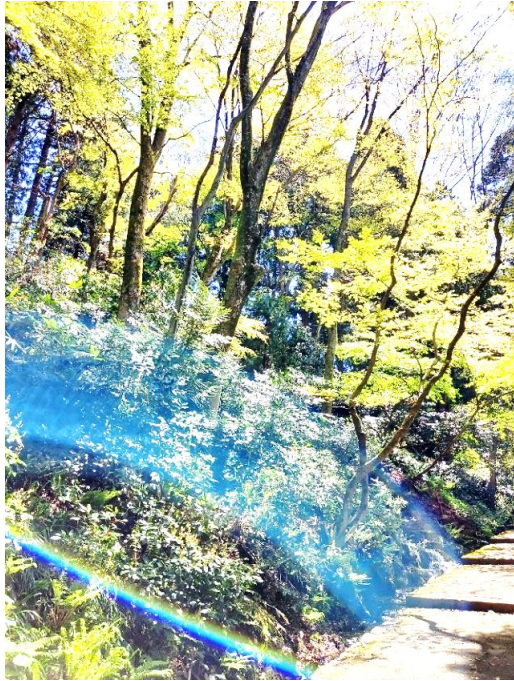
眩しい日の光に照らされ

美しいお姿が、見えてしまったような。。。^^



ブルーの光と言えば、シリウスの光であり、
地球の創生に関わったとされる“龍蛇族”（龍型宇宙種族）は、
シリウスから来たと言われます

白山比咩神社 琵琶滝



白山さん琵琶滝の上流には、河濯尊大権現堂があり
そこは、シリウスの女神であり、龍宮の乙姫でもある“瀬織津姫”が住む
“龍宮城”なのでは？と、最近感じていたのです^^



白山比咩神社 河濯尊大権現堂

あれっ?!

金劔宮境内にある“乙劔宮”の御祭神は
瓊瓊杵尊の子供とされる“彦火火出見命”です



彦火火出見命は、無くしてしまった釣り針を探しに、龍宮城へ行ったとされる

“山幸彦”の事ではなかったでしょうか？

そこで出会い、結婚したのが海神(わたつみ)の娘の“豊玉姫”

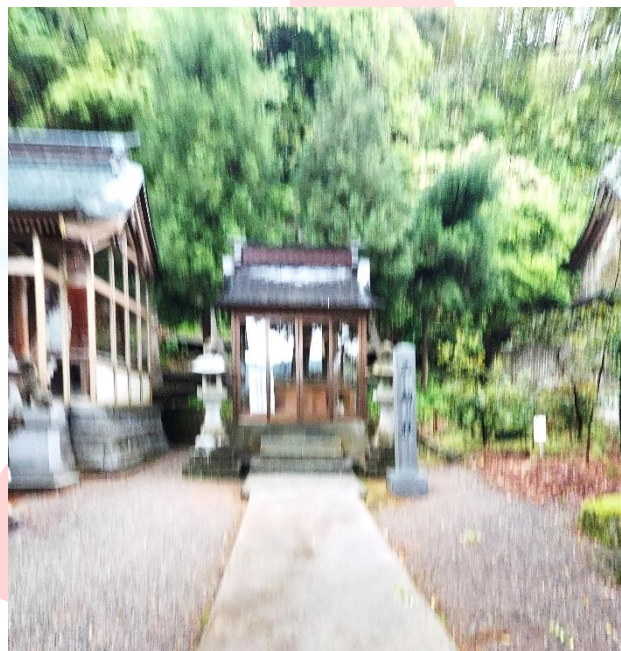
“豊玉姫”は龍宮の乙姫であり、“瀬織津姫”のこともあるのではないのでしょうか

龍宮の乙姫(シャンバラの姫神)は、青龍の姿となって

“白山比咩神社”と“金劔宮”の間を、自由に動き回っているのかもしれませんが

乙劔宮は、“豊玉姫と山幸彦”、“瀬織津姫と饒速日尊”の

“愛の宮” だったらステキ！♡^^



二

地球が宇宙の仲間入りを果たす“地球維新”でもあります！

“瓊瓊杵尊”は、白山比咩神社御祭神“菊理姫”と共に

未来(根源太陽神界)からやって来て

地球の今(過去)を変える“ウイングメーカー！！”

根源の“愛の維神”の志士！であり

第二の天孫降臨&帰還＝“根源へのアセンション！”の雛型です^^



【亀石】



手足がチョコッと付いていて、なんとも愛らしいです^^

浦島太郎を背中に乗せて、龍宮城へ運んだとされるカメさんですが

“鶴来”という町名の基となったのが“金劔宮”

鶴(太陽)が来るのを、首を長〜くして待っていた亀(地球)でもあり

「鶴と亀が統べった?!」かめ(も)？



【恵比須社】

【天の真名井】

“天の真名井”と、その奥にある“恵比須社”です
天の真名井は、大干ばつの時も長雨の時も、水量が変わらないとの事です
恵比須さんのイメージは、



自室に飾られている恵比寿さんです
突然の撮影にビックリ、アララ？(笑)
という感じでしたが
とても嬉しそうでもありました^^

釣り竿と鯛を抱えた、誠におめで鯛！福々しい神様ですが
イザナギとイザナミの間に最初に生まれた子供で、不具のため流された(涙)とされる
水蛭子(ヒルコ)であった事を知り、とても嬉しくなりました
こんなに立派な姿になって、宝船に乗って帰ってきた！のですね^^v
ここはやっぱり、海の楽園“龍宮城”だわ(笑)

神社とは、神羅万象、八百万の神々が集うテーマパーク？ワクワクの遊園地？！^^



【大忍石(牛石)】

この石に神霊が降臨したとされる影向石で、
天忍石(あまのしのぶのいし)と読むとの事
(形が牛に似ていることから、牛石とも)

【義経腰掛石】

「義経記」に、京都から奥州へ落ちる
源義経一行が金劔宮に参拝し、
夜通し神楽を奉納したと記されていて、
その時に、境内のこの石の上に腰掛け、
眼下に広がる平野や手取川を
眺めたとの事です

白山比咩神社から金劔宮までの旧道は、
義経が通った道であったことから
「義経街道」と呼ばれています^^



義経は、鞍馬寺の天狗(牛若丸=義経に剣術を教えた、鞍馬に住む天狗)のエピソードが有名です^^

天狗の総帥は、鞍馬寺の御本尊“尊天”の一柱である“護法魔王尊”とされ
金星からやってきたと言われる“サナートクマラ”であり、“スサノオ”であり、
地球ロゴスである“国常立大神”です

この度の、地球、シリウス、銀河の一大アセンションは
“サナートクマラ”と、そのハイアーセルフである“ヴァイワマス”（シリウスロゴス）が率いる
“シリウスプロジェクト”で、それをサポートするのが、

アンドロメダ銀河と、その奥の院 = (旧) 宇宙最高評議会であるアインソフ
そして、新アインソフの核心 = NMCの核心となった“根源天照皇太神”です！^^

意識は真に、どこまでも自由であり、∞！

義経腰掛岩から、宇宙の根源、根源天照（太陽）神界まで行く事ができます^^

その間には、たくさんの星々や、そこに生きる大切な命があつて

それら全ての中心にある根源太陽の、“究極の愛”の求心力によって、つなぎ止められている
もし、“根源の太陽”がなかったならば、宇宙は膨張・分裂、破壊を繰り返し、
粉々に崩れ去ってしまうのではないのでしょうか。。

私達の魂は、根源太陽母神の分御魂であり、つながっています

女性性の時代とは、自分達の中心にある“太陽のパワー”を全開にし、発現・共鳴すること！

この地球を“愛の星”にし、“愛のNMC”を創造してく事なのだと思います！！



【金刀比羅社】
御祭神は、崇神天皇

“こんぴらさん” と言えば、「こんぴらふねふね～シュラシユシユ」(讃岐のこんぴらさん)^^

海の神様と思っていたのですが、御祭神は“大物主神”とされ

奈良県の三輪山を御神体とする“大神神社”に祀られる、山の神？

“こんぴらさん”と“大物主神”と“崇神天皇”は、どのようなつながりがあるのでしょうか？

「金刀比羅」は、「金毘羅」とも表記され、その意味を調べてみると、
「ガンジス川に棲む^{わに}鱶を神格化した水神で、日本では蛇型とされる。」とあり

ここに大物主神とのつながりが見えてきました

三輪山の伝説では、大物主の真の姿は“蛇”だった？！と言われるそうです^^

そして崇神天皇と、大物主神との関わりを示すエピソードが、以下です

「崇神天皇の時代に疫病が蔓延し、多くの民の命が奪われ、

反乱等も加わり、世が大きく乱れてしまった。

宮中では“天照大神”と“倭大国魂神”^{やまとのおおくにたま}の二柱を祀っていたが

その神威があまりに強すぎて共に祀る事が出来なくなり、崇神天皇の命によって

“天照大神”^{とよすきいりひめのみこと}を豊鍬入姫命に託し、笠縫邑^{かさぬいむら}（現在の檜原神社、初代元伊勢）に祀らせた^{ひばら}

（こちらは後に倭姫命へと引き継がれ、伊勢神宮創建につながります）

“倭大国魂神”^{ぬなきのいりひめのみこと}は、淳名城入媛命に託し、宮廷外に祀らせたようとしたが、髪が抜け、

身体が痩せ細り、その役目を果たすことが出来なかった

天皇が必死で祈ると、夢の中に大物主が現れ、「国が乱れるのは私の意志である。

私の子孫である大田田根子を神主として私を祀れば、直ちに国は安らかとなる。」

と言うので、すぐに大田田根子（父は大物主、母は活玉依姫）を探し出し、

三輪山の祭主とし、“大物主神”を祀らせた

また、“倭大国魂神”も神託通り^{いらしのながおち}に、市磯長尾市を祭主として、現在の^い大和神社に祀ると

疫病は終息し、五穀豊穰となり、国に平安が戻った——」との事です

天照大神と一緒に祀られていた“倭大国魂神”とは、どのような神様なのでしょう？

大和神社の御祭神は、“大地主大神”^{おおとこぬしのおおかみ}となっています

大神神社（三輪神社）創建について、下記のようにありました（ウィキペディアより）

大神神社は纏向・磐余一帯に勢力を持った出雲ノ神の一族が崇敬し、磐座祭祀が営まれたとされる

日本でも古い神社の一つで、神奈備信仰様式をとった神聖な信仰の場であったと考えられる。

大穴持命が国譲りの時に、己の和魂を八咫鏡に取り付けて、倭ノ大物主櫛甕玉命と名を称えて

大御和の神奈備に鎮座した。これが三輪神社の創始である。（『出雲国造神賀詞』）

“大穴持命”とは“大国主命”の事とされ、大物主（倭ノ大物主櫛甕玉命）は

大国主命の“和魂”であることが理解できます

もしかしたら、“倭大国魂神”とは、大物主（大国主）の“荒魂”なのではないでしょうか？

“倭大国魂神”を大和神社に祀った市磯長尾市は、神武東征の際、
亀の背に乗って現われ神武を導いたとされる、国津神“^{しいねっひこ}椎根津彦”の子孫とされます
椎根津彦は、大和建国の第一の功労者として、神武天皇から倭宿禰の称号を賜ったとあります
大田田根子や市磯長尾市がどのような存在なのかは、複雑で、私にはよくわかりませんが
自身の“和魂”が大田田根子という、また“荒魂”が市磯長尾市という、
その本来の血筋を受け継ぐ、正統な子孫によって祀られた事で、大物主が納得した為に
疫病は終息し、国力が回復した、という事なのでしょうか

大物主 = 大国主 = 倭大国魂神、その背後に国常立大神を感じます

大物主神は、日本とそこに生きる民にとって、大きな影響力を持つ、“地の神”であり
国津神の代表とされる、“大国主命”（金劔宮本殿における配神の一柱）でもあるのだと思います
もう一方で、皇女によって宮中の外へと遷された天照大神は、二十数カ所を巡る事によって、
神国日本を守護するための結界を築き、最終的に伊勢の地に鎮まったとされます
天神地祇（天津神と国津神）は、崇神天皇の時代に生まれた言葉なのでは？とも感じました
人と神との間に、明確な境界線のようなものが現れた？というか、神々の世から
人が中心となる世へ、神皇から人皇へと移り変わった、という感じです

天照大御神の巡幸、元伊勢については、少し知識がありました

倭大国魂神に関しては、ほとんど無関心で、今回崇神天皇にフォーカスする事で
国津神の真の恐ろしさ = 人に与える影響力の強さ、偉大さが、とてもリアルに感じられてきました
私達は世界の雛型とされる、この神聖なる日の本に、

“国津神”と“天津神”という両神（両親）に守られ、育まれてきた

それは大自然との調和、秩序を保ちながら、愛の心を持って生きる、という事なのだと思います^^
最近何度も「おおたたねこ」という文字が目に入り、変な名前(笑)勝手に「大田 種子」？と想像し
田、種？農業の神様？が、何かおっしゃりたい事があるのかも…とっていたので、
なんだかスッキリしました！^^他に「ケツアルコアトル」？という言葉も何故か気になり、調べてみると
古くは水や農耕に関わる蛇神であったが、後に文明一般を人類に授けた文化神と考えられるようになり、
ギリシア神話におけるプロメテウスのように、人類に火をもたらした神ともされた。
神話では平和の神とされ、人々に人身供犠をやめさせたという。

蛇(爬虫類)は気持ち悪いと、苦手意識しかなかったのですが、これも知らず知らずに身についた
大きな偏見の一つなのかもしれない…、と感心しました

ひょっとして、金毘羅(金刀比羅)さん、大物主神、大田田根子さんは
国常立大神を中心として地球創生に関わったとされる“龍蛇族”の“蛇族”？なのかも

賀茂？ 大田田根子さんは、三輪氏や賀茂氏の祖先でもあるとの事で、
八咫鳥さんともつながっている…？

次から次へと謎が表れて、何が最初の疑問だったのか？ わからなくなります(笑)

日本の歴史も、そんな風にして創られてきたのかもしれませんが

私を今回金劔宮へと導いてくれたのは、崇神天皇(白山比咩神社創始の地)であり

「原点(創始)に帰れ！」との、中今メッセージなのかもしれません^^



【丈六社】

御祭神 大山咋命、猿田彦命、
日本武尊、菅原道真公

【栗島社】

御祭神 少彦明神

(丈六社？ 変わった名前で、ここにも謎が一杯ありそうですが、今後の課題として^^)

少彦明神は、大国主命と共に、国造りに大きな役割を果たした神で
海の果てにある常世の国へと帰っていった…とされ、やはり龍宮城が(笑)



金劔宮の背後には深い林が広がっていて、人を元気にするパワーに溢れています

清々しい緑の向こう側には、招魂社があり、護国の英霊が祀られています



【神馬の像】

拝殿の傍にある青銅像で、
鞍に神紋(五七桐)が描かれています
木曾の源義仲が、倶利伽羅谷合戦の大勝を奉謝して
鞍置馬 20 頭を寄進した故事を記念して、
とあります

金劔宮は劔の神であり、武運の神として、大切にされていたことがわかります

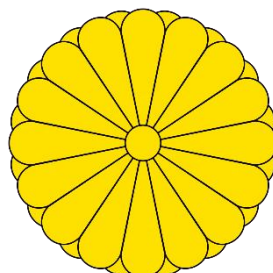
神門である“五七桐”は、古くは皇室専用の紋でしたが、
後に、功績のあった武将に贈られるようになり、武家の間に広がっていったとされます



現在は、日本国政府の紋章として使用されています

金劔宮は、“劔”の上に“金”が付くことから、十六菊花紋がイメージされます

釣灯笼や拝殿の屋根等に見られます



まつりごと
“政”（政治）＝“祭り事”（祭祀）

祭政一致＝“両刃が揃う！”でもないでしょうか^^

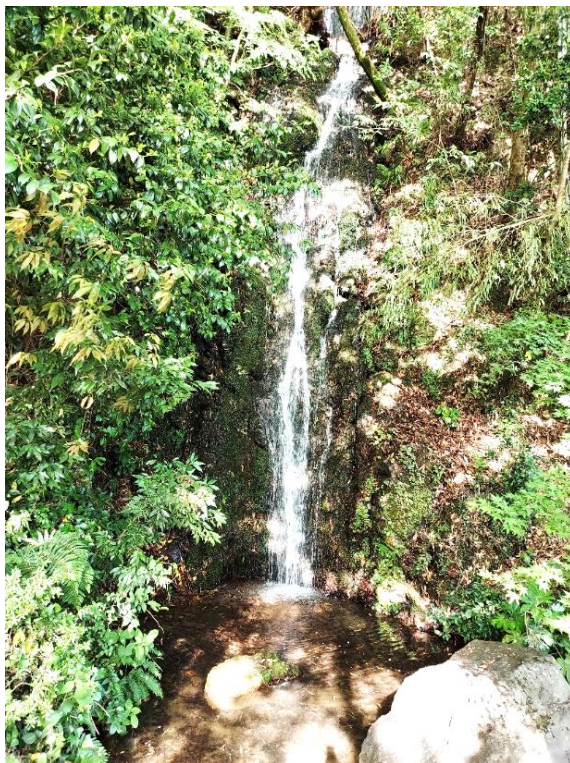


【舞殿】

金劔宮の境内舞台殿。能猿楽の舞台。
舞殿の正面向かって左後に
渡廊下と楽屋が備わる

あれ～、出口ここじゃなかったような。。。 (いつものパターン、笑)

そう思いながら歩いていくと、見えてきたのが



【金劔宮不動滝】



この瀧に呼ばれた…、そんな気がしました

高さ15メートル、幅7メートル程の小さな瀧ですが、白くて深い緑色…、すごく神秘的です

白山比咩神社拝殿にも感じる、懐かしい光——

美しい白珠が、コロコロと転がり落ちてくるようにも見え、命（御魂）^{みたま}の故郷と浮かびました^^

金劔宮入口の鳥居は、車道を挟んだ坂道の下に、ニカ所あるようです

来た時は、正面真下にある、かなり急な石段を上ったのですが、そちらが【男坂】とされ

帰りは、こちらの緩やかな石段が続く【女坂】を下りてきた事になります
急な男坂を必死に上って、なだらかな女坂を下りてくる ——
なんだか自身の今の心境であり、永い“宇宙史”のようにも感じられます^^

ここ金劔宮には、まだまだ知らない事が一杯?!という感じですが、
私にとって、“白山さん”ともう一つ、大切な宝物を見つけた気がして、嬉しく思います^^

“瓊瓊杵尊”についての中今のイメージが、最初に掲げた絵なのかもしれません
“金”と“白”と、それに“赤”=根源の愛の太陽を表す、“強烈な赤!”のイメージです^^

瓊瓊杵尊の“瓊”という字を調べてみると、「美しい赤色の玉」とあり、ビックリ!
天饒石国饒石天津彦火瓊瓊杵尊(あめにぎしくににぎしあまつひこほのくににぎのみこと)とも表記され
「あめにぎしくににぎし」(天にぎし国にぎし)は、「天にも地にも親和的である」の意
まさに、その通りなのだと思います

私が金劔宮の御祭神をみて、最初に感じた素朴な疑問
国津神と天津神と一緒に祀られているのは何故? その答えであるような気がします^^

瓊瓊杵尊のパートナーとされるのが、“木花咲耶姫”です
桜の花のように、華やかで美しい、誰もが憧れる女神様ではないでしょうか

瓊瓊杵尊と木花咲耶姫の結婚に関して

「姉の“石長比売”(いわながひめ)を追い返したために、瓊瓊杵尊とその子孫は
神としての永遠の命を失った」というお話がありますが、私はこのように感じています^^

木花咲耶姫は、容姿端麗とされ、外見、仮の衣である肉体の象徴として

逆に、石長比売(磐長姫)は、醜い=「見えにくい」であり、

中身、真実の自己である永遠の魂の象徴として

木花咲耶姫と石長比売は本来、表と裏、二人で一人であったはずですが
木花咲耶姫しか目に入らなかった瓊瓊杵尊とは、これまでの私達自身の姿でもあり

目に見えるもののみを優先し、真の自己を見ようとしなかった

“物質優先の時代”の象徴でもあります

それでも石長比売は、ずっと二人の事を見守ってくれていたのではないのでしょうか

大きな、深い愛で ^^